



2018年3月期 第3四半期
決算説明資料



(アスファルトプラント)

▶ 決算実績サマリー	…1
▶ 売上高と営業利益の推移	…2
▶ セグメント別売上高・営業利益	…3
▶ セグメント別売上高・営業利益・利益率推移	…4
▶ 受注残高の推移	…5
▶ 建機製品販売 受注高・受注残高の状況	…6
▶ 財政状態の分析	…7
▶ 今期の設備投資	…8
▶ 各事業セグメント毎の状況	…9-12
▶ 配当金推移	…13



(自走式破砕機)

決算実績サマリー

(百万円)

	2017年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	2018年3月期 通期業績予想
売上高	21,798	24,145 予算(24,112)	34,500
営業利益	1,108	1,201 予算(1,055)	2,100
経常利益	1,211	1,356 予算(1,199)	2,200
当期純利益	918	1,051 予算(923)	1,500

決算のポイント

中国での売上が大幅に伸長したこと、国内アスファルトプラント製品で大型物件の売上が集中したこと、及び環境製品で大型物件の売上があったことにより、前期比10.8%の増収となる。セグメント別では、アスファルト関連で前期比+10.4%、コンクリート関連で前期比+4.8%、環境・搬送で前期比+55.2%。予算との対比でもほぼ計画通り。

材料費・外注費が増加し、売上高原価率は2.3%悪化した。売上が23億増加したこと、及び販管費が減少したことで、前期比8.3%の増益となる。セグメント別では、アスファルト関連は前期比+29.4%、コンクリート関連は前期比横ばい、環境・搬送は大型環境製品の低採算が影響し、前期比▲29.8%。予算との対比では、コンクリート関連事業の利益が計画を上回ったため、予算を上回る結果となる。

受取配当金が前年同期に比べ14百万円増加、為替差損益の変動による影響が9百万円改善。

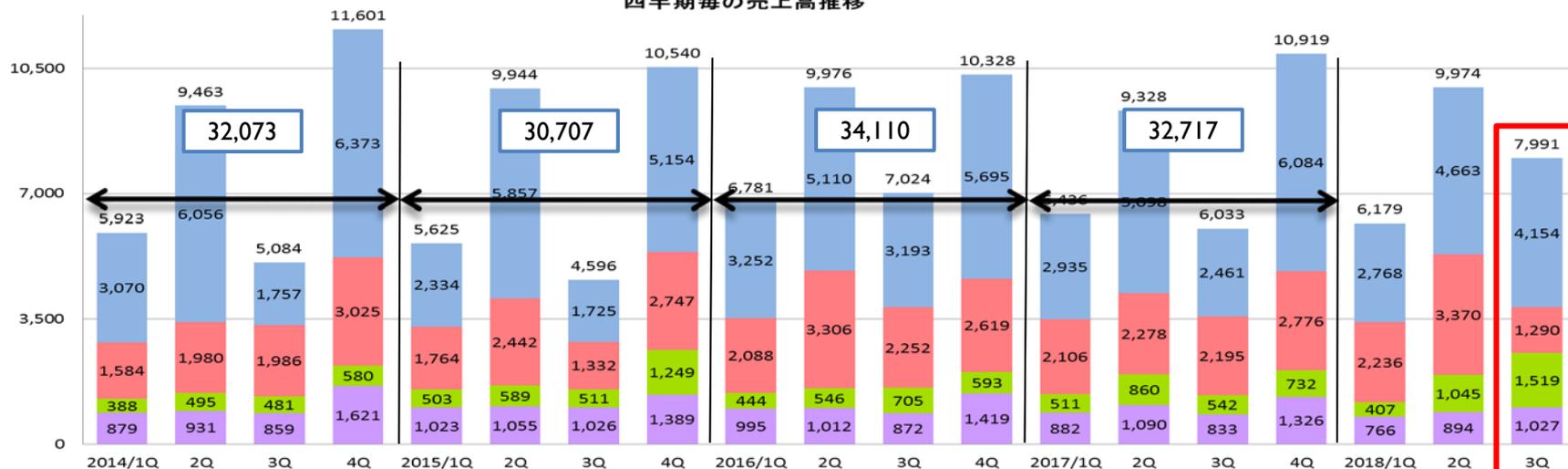
政策投資株の売却を進めた結果、特別利益に有価証券売却益を169百万円計上。更に、環境対策引当金戻入額39百万円も特別利益に計上。

売上高と営業利益の推移

■ アスファルトプラント関連事業 ■ コンクリートプラント関連事業 ■ 環境及び搬送関連事業 ■ その他事業

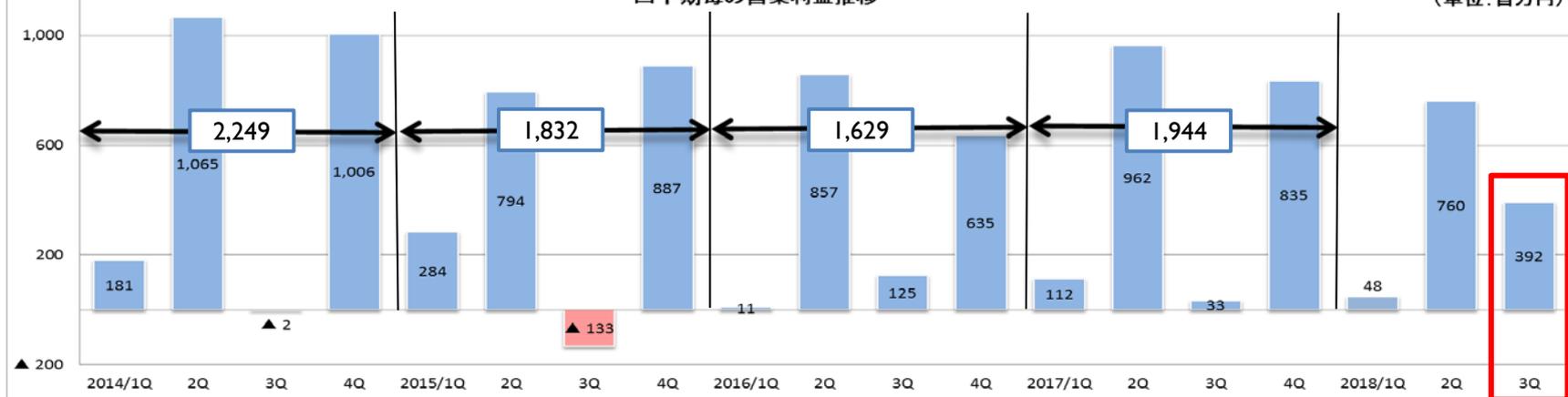
(単位: 百万円)

四半期毎の売上高推移



四半期毎の営業利益推移

(単位: 百万円)



セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

セグメント	売上高 第3四半期			営業利益 第3四半期		
	前期	当期	通期予想	前期	当期	通期予想
アスファルトプラント 関連事業	10,496	11,587	17,700	593	768	1,400
予算に対する進捗率	63.3%	65.5%	-	47.3%	54.9%	-
コンクリートプラント 関連事業	6,579	6,897	9,200	733	737	900
予算に対する進捗率	70.3%	75.0%	-	72.9%	81.9%	-
環境及び搬送 関連事業	1,914	2,972	3,500	308	216	450
予算に対する進捗率	72.3%	84.9%	-	83.5%	48.0%	-
その他事業	2,807	2,687	4,100	225	228	450
予算に対する進捗率	67.9%	65.5%	-	54.0%	50.7%	-
全社費用	-	-	-	▲ 751	▲ 750	▲ 1,100
合計	21,798	24,145	34,500	1,108	1,201	2,100
予算に対する進捗率	66.6%	70.0%	-	57.0%	57.2%	-

業績の主な要因

中国事業が好調で、前年比増収・増益も国内メンテナンスサービスが減収となり、利益率が低下。第4四半期にメンテナンスサービスの売上が集中するので、予算通りの着地を見込む。

コンクリートポンプの売上が前年比減少するも、製品・メンテナンスサービスともに前年比増収。予算を上回る着地を見込む。

環境関連で大型物件の売上があったため、前期比大幅増収となるも、大型物件が低採算であったため、前年比減益。搬送関連は増収となるも利益率低下し、昨年並みの利益。売上は予算どおりも利益は予算を下回る見込み。

破碎機は前年比増収・増益となるが、土農工具・仮設機材・水門が前年比減収。第4四半期に水門の売上が集中するため、予算どおりの着地を見込む。

※前期分は実績に対する進捗率を記載しております。

セグメント別 売上高・営業利益・利益率推移

(単位：百万円)

セグメント	2012年度			2013年度			2014年度			2015年度			2016年度			2017年度 第3四半期			2017年度(予想)		
	売上	営業利益	利益率	売上	営業利益	利益率	売上	営業利益	利益率												
アスファルトプラント 関連事業	15,054	1,492	9.9%	17,258	2,125	12.3%	15,071	1,214	8.1%	17,252	1,234	7.2%	16,580	1,253	7.6%	11,587	768	6.6%	17,700	1,400	7.9%
コンクリートプラント 関連事業	5,889	317	5.4%	8,577	678	7.9%	8,287	712	8.6%	10,267	878	8.6%	9,356	1,006	10.8%	6,897	737	10.7%	9,200	900	9.8%
環境及び搬送 関連事業	2,085	250	12.0%	1,944	166	8.5%	2,853	527	18.5%	2,289	337	14.7%	2,647	369	13.9%	2,972	216	7.3%	3,500	450	12.9%
その他事業	4,058	59	1.5%	4,292	388	9.0%	4,495	451	10.0%	4,301	277	6.4%	4,133	417	10.1%	2,687	228	8.5%	4,100	450	11.0%
合計	27,086	1,186	4.3%	32,071	2,249	7.0%	30,706	1,832	6.0%	34,109	1,629	4.8%	32,717	1,944	5.9%	24,145	1,201	5.0%	34,500	2,100	6.1%

各決算のポイント

震災復興関連の製品販売が増加し始めたのに加え、全国的にメンテナンス工事が増加したことにより増収・増益。

政府が掲げる国土強靱化政策により、全国的に公共工事が増加。民間建設需要も増大したため増収・増益。

アスファルトプラント関連事業で大型案件が複数翌期へずれ込んだこと等で減収・減益。

前期末の高水準の受注残を順調にこなし大幅な増収となるも、外注加工費の増加等により原価率が悪化し減益。

前期が近年にない高い売上実績であったことの反動で減収となるが、外注加工費等の減少により原価率が改善し増益。

中国での売上が大幅に伸長したこと、国内アスファルトプラント、及び環境プラントで大型物件の売上があったため増収・増益。

その他事業以外のセグメントは増収となる見込み。利益は一部のセグメントで減益が予想されるものの、全体では増益予定。

受注残高の推移

(単位：百万円)

セグメント	受注残高の推移						
	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期
	3Q実績	期末実績	3Q実績	期末実績	3Q実績	期末実績	3Q実績
プラント販売	4,814	4,821	2,716	3,583	2,860	2,918	1,952
メンテナンスサービス	561	368	1,015	936	1,335	774	1,229
日工上海	744	454	794	501	1,129	815	2,627
輸出	404	210	254	174	28	168	260
アスファルトプラント関連事業	6,523	5,853	4,779	5,194	5,352	4,675	6,068
プラント販売	2,916	3,225	1,886	2,337	3,660	2,868	2,404
メンテナンスサービス	356	100	298	92	295	356	449
日工上海	-	-	-	-	-	-	-
輸出	10	17	113	55	-	-	-
コンクリートポンプ	151	123	146	231	182	126	29
コンクリートプラント関連事業	3,433	3,466	2,446	2,716	4,137	3,350	2,883
環境及び搬送関連事業	769	309	327	815	794	1,390	733
仮設機材	-	-	-	-	-	-	-
土農工具	-	-	-	-	-	-	-
破砕機	3	96	82	92	115	108	128
その他	814	438	835	343	598	423	705
その他事業	818	535	917	435	713	531	833
合計	11,543	10,163	8,469	9,160	10,996	9,946	10,517

建機製品販売 受注高・受注残高の状況

(単位：百万円)

第1四半期 受注高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	2,264	1,857	820	948	992	+44
コンクリートプラント	891	1,130	1,949	2,181	690	▲1,491
海外(除中国)	208	63	373	300	143	▲157
中国	430	780	881	419	2,122	+1,703
合計	3,793	3,830	4,023	3,848	3,947	+99

第4四半期 受注高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	1,502	1,645	2,373	1,843	-	-
コンクリートプラント	443	1,513	1,510	837	-	-
海外(除中国)	112	436	151	293	-	-
中国	498	119	609	686	455	▲231
合計	2,555	3,713	4,643	3,659	-	-

第2四半期 受注高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	804	1,146	569	1,268	1,108	▲160
コンクリートプラント	1,469	1,532	687	1,198	1,455	+257
海外(除中国)	22	94	351	306	460	+154
中国	764	195	614	593	784	+191
合計	3,059	2,967	2,221	3,365	3,807	+442

通期 受注高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	5,838	6,841	4,632	4,372	-	-
コンクリートプラント	4,242	5,157	4,645	6,115	-	-
海外(除中国)	993	835	928	899	-	-
中国	2,032	1,095	2,533	1,877	3,863	+1,986
合計	13,105	13,928	12,738	13,263	-	-

第3四半期 受注高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	1,268	2,193	870	313	836	+523
コンクリートプラント	1,439	982	499	1,899	1,283	▲616
海外(除中国)	651	242	53	0	173	+173
中国	338	0	428	177	500	+323
合計	3,696	3,417	1,850	2,389	2,792	+403

期末 受注残高	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	前年比較
アスファルトプラント	2,401	4,821	3,584	2,918	-	-
コンクリートプラント	1,458	3,225	2,569	2,994	-	-
海外(除中国)	402	227	230	168	-	-
中国	763	454	501	815	1,899	+1,084
合計	5,024	8,727	6,884	6,895	-	-

※中国は12月決算

財政状態の分析

(単位:百万円)

連結貸借対照表		2017年3月期	2018年3月期 第3四半期	増減
資産	流動資産	30,764	30,773	+8
	有形固定資産	5,206	5,305	+99
	無形固定資産	331	371	+39
	投資その他	8,673	9,540	+866
総資産合計		44,976	45,990	+1,014

負債	流動負債	12,494	11,864	▲630
	固定負債	3,392	3,715	+323
純資産合計		29,089	30,410	+1,321
自己資本比率(%)		64.7	66.1	+1.4
D/E レシオ(倍)		0.07	0.07	▲0.01
1株当たり純資産(円 銭)		3,746.35	3,972.03	+225.68

増減の主な要因

建設仮勘定 +225百万円

来期完成予定の新築ビル『技術センター』の建設による増加。

投資有価証券 +869百万円

株価の上昇により、保有する上場株式の時価評価額の増加。

未払法人税等 ▲633百万円

環境対策引当金 ▲171百万円

産機工場の土壌浄化工事終了により、引当金取り崩し。

四半期純利益 +1,051百万円

剰余金の配当 ▲424百万円

自己株式の取得 ▲245百万円

その他の包括利益 +939百万円

今期の設備投資

(単位：百万円)

今期の設備投資 2018年3月期 第3四半期 (2017年4月～12月)	
アスファルトプラント 関連事業	60
コンクリートプラント 関連事業	78
環境及び搬送 関連事業	1
その他事業	111
本社	249
合計	501

※ 減価償却費 361百万円

技術センター建設 225百万円

当社の開発・技術力強化のため、人員を増員しているが、事務所が別棟に分かれている非効率を1か所に集約することで効率化を図り、かつ1階はショールームとして、当社開発製品の展示も可能とする目的で総投資額7億をかけて建設中平成30年度中に完成予定。

営業支援システム 41百万円

営業部門と技術部門との連携をより深めるため、業務の流れに沿ったシステムを構築し、情報を一元管理することで、営業効率の向上だけでなく、全社効率も上がり、経営指標の可視化までを目的として導入。

コンクリートプラント 新型操作盤開発 24百万円

他社との差別化により、競争力のある操作盤開発を行うためにフルモデルチェンジし、顧客の購買意欲を高め 将来の受注を有利にする目的で開発中、平成30年度中に完成予定。

工場の設備投資 14百万円

生産性の改善、老朽化した設備の更新、省力化を目的とした設備投資を実施。来期以降は、溶接ロボット投資も含め生産性改善に向けた設備投資を実施予定。

各事業セグメント毎の状況 アスファルトプラント関連事業

●セグメントの概要●

アスファルトプラントの製造・販売・メンテナンスサービス。販売先は主に国内の大手道路会社、及び海外各地区道路会社等。

国内の製品の売上高は大型物件が多かったことにより、前期比増加。メンテナンス事業の売上高はシステム製品が減少したため前期比減少。海外の売上高は中国でのインフラ投資が伸びた商機をとらえ前期比大幅に増加。この結果、当事業の売上高は前期比10.4%増の115億87百万円となりました。当期間の受注活動は好調に推移し、受注高、受注残高ともに、前期比で増加。

重点施策と現状成果

国内アスファルト合材の生産量は、今後漸減することが見込まれる中で、現在では再生合材の占める比率は80%にまで高まり、顧客はリサイクル生産設備への投資に傾注。

これを当社では商機ととらえ、従来の新規材料を使用するプラントに加熱再生設備を増設するスタイルから、設計変更を行い、加熱再生合材製造プラントをセンターに置く新機種「VPシリーズ」を開発。

昨年度販売実績1台、今期は2台の販売目標を設定し、計画通りすでに2台を納入済み。来期は3台を計画、今後は更に安全性、生産性の改善が図れるような機種を順次市場投入の予定。

今期売上製品



NAP・ABD-3000+NRU・TOP α 100+AZU360

国内最大級の生産・出荷能力を有するアスファルトプラントです。6種類のアスファルトタンクも装備し多品種の合材出荷にも対応可能となっております。



MBD1600+TOP α 80+AZU220

再生合材を主体に生産を行う、ミッドシッププラントの5号機で、日工の主戦力機種です。駆動装置点数の削減や、敷地に合わせた機械配置で車両エリアを限定し、安全面を考慮しております。

各事業セグメント毎の状況 コンクリートプラント関連事業

●セグメントの概要●

コンクリートプラントの製造・販売・メンテナンスサービス及びコンクリートポンプ車の製造・販売。販売先は主に国内の生コン工場。

国内の製品の売上高は期初の受注残高が昨年度を上回っており、注残を確実にこなしたことで前期比増加。また、メンテナンス事業の売上高も前期比増加。この結果、当事業の売上高は、前期比4.8%増の68億97百万円となる。一方で当期間の受注活動は前期比低調に推移し、受注高、受注残高ともに、前期比で減少。

重点施策と現状成果

第二次安倍内閣になり、災害復旧工事、東京五輪、リニア中央新幹線、各地における再開発事業等、官民ともに建設工事は活況。このような市場環境下、顧客の設備投資はここ数年は旺盛である。

今年度は、製品の差別化を図るため、業界初のプラント制御盤リモートメンテナンスシステム等投入し、市場占有率を伸ばす事に注力し成果がでている。

今後は、東京五輪開催を境に市況は減速すると予想され、また同時に日本全国各地域において生コン工場の集約化に拍車がかかることが予想されている。コンクリートプラント製品に対する総需要が減少する中で、当社は、新製品の投入による差別化を武器に市場占有率を伸ばしていく方針。

今期売上製品



DASH-H130Evo I 60H-ITBR

周辺道路拡張に伴う工場内配置変更に合わせて、バッチャープラントDASH-H130Evo I に更新頂きました。より一層の品質向上、生産効率向上が期待されます。



DASH-H225Evo III 130R-TRI U

お客様の新プラント入替要望により採用頂きました。混和剤の種類を豊富にし、多種多様のコンクリートに対応するDASH-Hyper-225ミキサを搭載したバッチャープラントです。

各事業セグメント毎の状況 環境及び搬送関連事業

●セグメントの概要●

ベルトコンベヤの製造・販売。空き缶、ペットボトル選別等の環境関連製品の製造・販売。

環境製品の売上高は大型物件が寄与し、前期比大幅に増加、また搬送製品の売上高も前期比増加。この結果、当事業の売上高は、前期比55.2%増の29億72百万円となる。当期間の受注活動は好調に推移し、受注高は前期比増加するも、受注残高は、前期比で減少。

重点施策と現状成果

長年アスファルトプラント及びコンクリートプラントなどで育み培ってきた搬送、混練、燃焼、乾燥、加熱、集塵、冷却、制御などのコア技術を駆使し、環境領域で技術提案を実施。顧客と実証実験などを通じて問題解決に繋げて行く営業スタイルにて領域を拡大。

今期は、その成果が現れ、大型案件の受注や売上を計上することができた。来期以降も顧客の課題を解決する環境プラントを顧客と共に実証実験を行いながら開発していく営業スタイルを継続し、環境プラントの領域を拡大していく方針。

今期の主な実績は右記のとおり。

【ミルスケール乾燥設備】

今期売上製品



ミルスケール乾燥設備

製鉄での副産物であるミルスケールを、再利用するために乾燥する設備です。弊社の乾燥技術を含めた設備一式を採用頂きました。



木質タール燃焼装置

木質バイオマス発電にて発生する、副産物のタールを二次燃焼炉の燃料に利用。化石燃料を使わないため、コスト削減、CO2削減にもつながります。(前期売上実績)

●セグメントの概要●

仮設機材、ショベル等土農工具、水門、破碎機等の製造販売。

破碎機の売上高は前期比増加したが、土農工具、仮設機材、水門の売上高は前期比減少。この結果、当事業の売上高は前期比4.3%減の26億87百万円となる。

重点施策と現状成果

破碎機事業の領域拡大に積極的に努める方針。新たな領域として、ドイツKleemann社の自走式破碎機の輸入販売（主な用途先は碎石工場）、及び大半のアスファルト工場に設置されているリサイクル合材破碎機の販売に注力中。

仮設機材では他社と差別化できるラクラクタラップ、斜面ノリダー、及び機材センターの合理化機械に注力中。

ショベル等土農工具に関しては、国内での一貫生産から刃先は中国から輸入し、組み立てのみを行う生産方式に変えたことによるコスト削減効果を具現化することに注力中。

水門は地方公共団体の予算に左右される点是否めないが、コスト削減に更に努め、落札比率向上に注力中。

今期売上製品



自走式破碎機

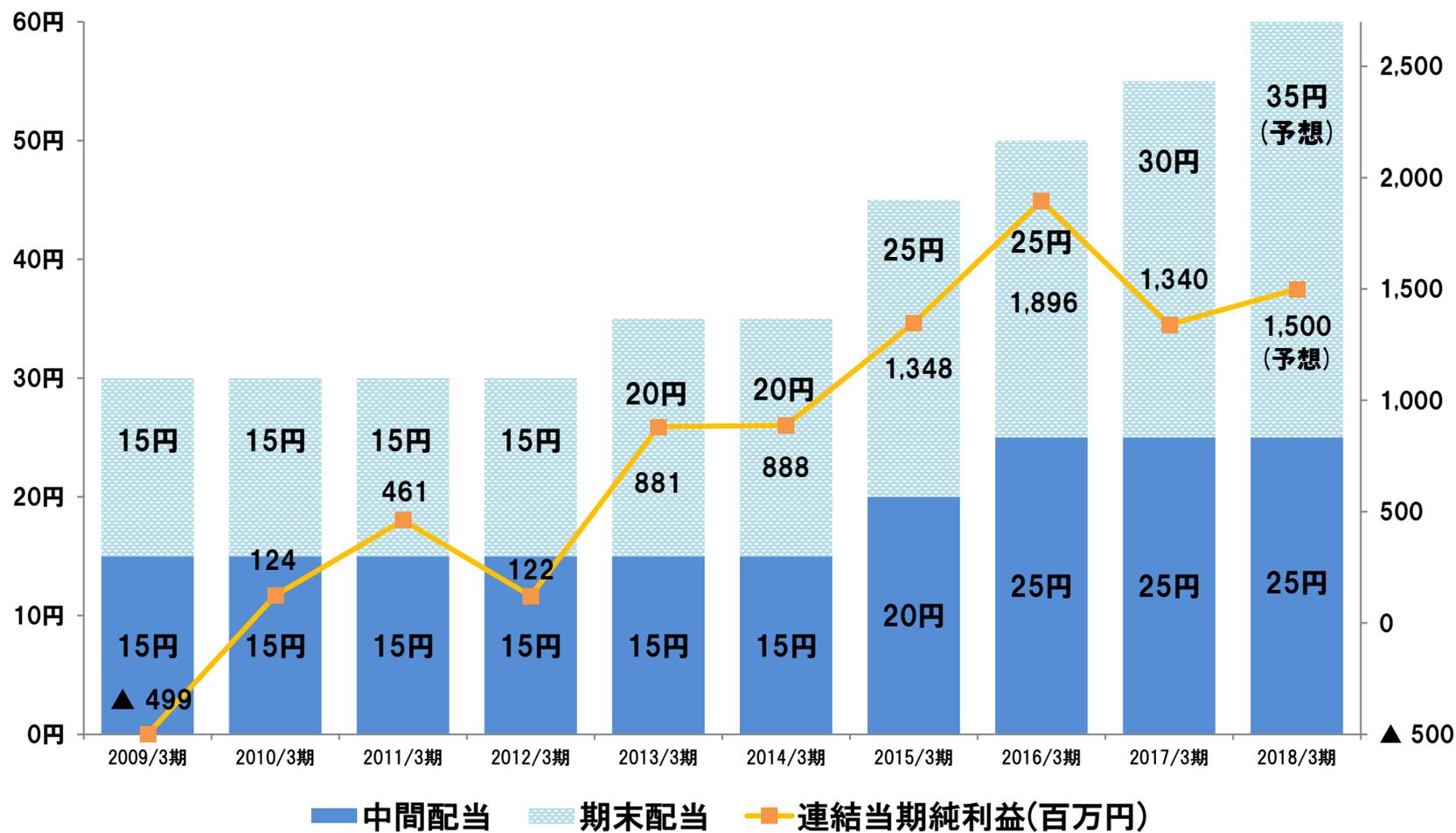
ハイブリッド機能により低燃費で高い出荷能力を発揮するドイツ製の自走式ジョークラッシャーです。頑強な構造により、コンクリートガラ・碎石共に難なく破碎する事が可能です。



仮設機材製品

昇降設備の本設として採用された現場です。新型斜面ノリダーの特長である、踊場正面への乗込みができる形で、新型ノリダーとラク2タラップを直列に設置した例です。

配当金推移



※株式併合後の金額に置き直して記載しております。



当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、投資判断を決定する場合には、当資料の将来の見通しのみには依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。また、当資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更する事もありますので、ご了承ください。